新年隨想

公害え産学一体の場

会長　池田　悦治
（大日本塗料KK社長）

近頃都市の公害問題が頻りに論ぜられている．人は自らの手で文化をつくり，その恩恵として，いわゆる文化生活を営む筈なのに，どうして公害を起こし，それによって苦しむのだろう．

◇

公害の中に住むようになって，遠い自然の山河が恋しくなり，極めて当り前だった水や空気のありがたさが，しみじみと感ぜられる．余りに大きな恩恵を忘れて，目前の小さな利に走り勝ちな近代人にとって，何か知らん悪夢をさまされたように思える．

われわれが全知をつくして創造した文化が，時として人類破滅の具を生産したり，楽しいはずのレジャーを一瞬にして，悲しい思い出にしてしまったりする．これほどおろかなことがあろうか．どこかで，何かが喰いちがっている．

◇

そこでわれわれは，もっと静かに物ごとの本質を究めて生活する訓練をしなければならないのではなかろうか．

そんなにスピーデイでなくともいい，むしろおそい歩みの中で，ほんとうの文化をつくり，そしてその文化を味わえるようなゆとりをもちたいものだ．

半分が幸せで，半分は不幸であるような社会ではなしに，全部が幸せである社会にしたい．

もう少し叡知をもったはずの人間が，折角創造した文化の恩恵から追い出されてしまってはおしまいである．せつせと建設した文化都市から逃避して，最も原始のままの水や大気を探し求めなければならないのは幻滅だ．

公害を無くするための努力，生命を大切にするための投資，何のためらいもなくなされていいはずだ．

◇

翻って，われわれの社会は，文化のおかげで，偉大な発展をなし遂げて来たが，そのために，大きな過ちを犯かしても来．公害はその過ちの最たるものだろう．

専門が更に専門へと分化して行くことに大きな進歩があるのだが，その半面に，分化された専門を総合して，互いの間の調和と均衡をとることによってでなければ，社会の福祉とはなり難い．

◇

産業は，学問によって発想され，学問によって伸びて行くのだけれども，それが一つの産業のための学問であったり，一つの学問のための産業であるとき，産業が社会え過ちを犯かし，その学問が社会悪ともなり兼ねない．公害はこのときに起こる．

産業の発想は，より広い学問の場で究められると同時に，もつと他の産業との関連を考慮に入れなければなるまい．

人々が，より良い生活をするための奉仕である産業が，真にその目的を達成出来るのは，学問が，常に高い，そして広い視野から，産業を生活に直結させる指導をしたときである．このときに公害は無くなる．

公害は，最早や論ぜられるものでなくて，措置されるべきものであるだけに，今こそ産学一体，速やかにその解決を期したい．

新しい年を迎えて人生を再発足する思いである．